

今、地震が起きたら。 自分や家族の命を守れますか？

防災・減災について考えよう vol.26

問 危機管理室 (☎ 62-3145)

気象庁によると、南海トラフ沿いの大規模地震（M8 から M9 クラス）は、今後 30 年以内に発生する確率が 70 ～ 80% とされています。いつ起きるかわからない地震。自分や家族を守るためにできる対策を進めましょう。

「自分だけは大丈夫」

「いざとなれば何とかかなる」では、救えない。



●平成元年以降の主な地震災害での死者・負傷者など

阪神・淡路大震災（平成 7 年 1 月 17 日）

死者 6,434 人 行方不明者 3 人 負傷者 43,792 人

新潟県中越地震（平成 16 年 10 月 23 日）

死者 68 人 負傷者 4,805 人

東日本大震災（平成 23 年 3 月 11 日）

死者 19,729 人 行方不明者 2,559 人 負傷者 6,223 人

熊本地震（平成 28 年 4 月 14、16 日）

死者 273 人 負傷者 2,809 人

平成 30 年北海道胆振東部地震

（平成 30 年 9 月 6 日）

死者 43 人 負傷者 782 人

（出典：気象庁 過去の地震津波災害）

過去の地震による被害をみても……

現実には、被害を完全に

防ぐことはできません。

対策でどれだけ被害を減らせるか

（減災）が重要です。

災害を想像し、
それぞれの環境と
照らし合わせてみよう



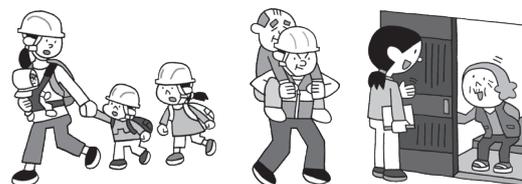
地震災害を想像する

- ・立つこともできないほど揺れる
（特に子どもや高齢者は飛ばされる）
- ・家具が倒れ、あらゆるものが飛んでくる
- ・電話が繋がらず家族と連絡がとれない など



それぞれの環境（例）

- ・小さな子どもがいる
- ・支援が必要な高齢者がいる
- ・親が一人で暮らしている など



見えてくる必要な対策（一部）

- ・身を守る行動の確認
- ・家具の固定（家具の位置）、ガラスの飛散防止
- ・家族との連絡手段を確認
- ・家族構成に合った備蓄（おむつ、ミルク、常備薬など）

「あのとき対策しておけばよかった」
では、もう遅い。命は1つです。
後悔しないでください。
できることを今からやりましょう。

広報うえのはらでは、毎月、防災対策の情報として「防災・減災について考えよう」を掲載しています。バックナンバーは QR コードから→

